夫木和歌鈔 十一

秋二

文化六四月廿一日

契本拾了

全三十六冊

837
36
4

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

伊勢記 首

宿

夫木和歌抄第十二

秋部二

題

萩　女郎花　薄

荊萱　萩　蘭

草香　秋花　槿花

秋野

根岸信輔氏寄贈

曹氏文庫

昭和八・七・三 寄贈

837-4

萩

歌不知

中納言家持卿

一万八 大納言旅人

[illegible]

一万十

[illegible]

光明峯寺入道摂政家四會聖經早秋

従二位家隆卿

[illegible]

歌云 [illegible]

坂上郎女

一万八

[illegible]

恵慶法師集　民部卿為家
ほのみえしそのみさかりの萩の花にほひつるともとひしとてしか
為家卿家百首　従二位家隆
露おもみくるにはおしきまさきの萩をたれみよとかは枕くきのちれ
題不知　人丸
万十
萩の花さきたるのへにひとりしのすくなきに秋風そふく
正治二年百首　後京極摂政
こゑたてゝ山のゆふはえまつほかの萩の花みるもしそすく
題不知　よみ人しらす
万十
まくらかすよひ秋風さむくしにあきのゝ萩かもちる
百首歌中　前中納言定家卿
新後撰五
かりこそわけつの野辺の萩か花ありしにまさるはなはいかにて
大宝二年太上天皇幸于三川国之時　長忌寸意吉麻呂
万一
ひくま野ににほふ萩原入みたれころもにほはせたひのしるしに
千首歌　民部卿為家
むさしのゝはきかえにおく露をきてうつしそめけむいろかも
寛喜元年女御入内屏風　前中納言定家卿
よそ人のえるもすゝしかつさらひくまの野への萩かえたも
題不知
よみひとしらす

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』　請求記号 837-4
ガラス使用

十 さぬらの野人の秋ぞさ河あれはいの夜さりるりゆりてきくじ

鄙ふ和　丹沢國人

万八 あすか川ゆきて此をり此秋ハ今ふ夜ふる夜に蒙かる夜さりし

建永元年仙洞御合鞠草花

続千秋上 日か袖ハかさもあしあへとあとか川ゆきてのなり此さきの白家

文永二年白川殿七百そ正二位知家卿

旅人のゆきて此とかのこそさきたちうつれハかりか袖のたちな

鄙君和　中納言家持卿

万八 たか雨との野人の夜のあき秋この此のあつさ家まさきは久しかも

万九 こや人の袖つきころもあき秋よ小りひとりしきさ雨とのこ

鄙花御

万十 秋風ハ日ことにふきぬさりかとの野人の此秋ちら雨くゆも

陽川院内内百首　前兵衛内

さか雨との野人の夜ゆけハ秋ときのむすり衣きぬ人そうさ

正治二年百首　源師光

毎か雨との野人のあきとさきの行ハおきなきひまもふかり袖

鄙君和　高市黒人

万三 いさやこゝやさしへりやくしもけの雨のとしきつたとりてゆん

陽川院内内百首　大納言師頼卿

蜘のいにあさちかすゑにかゝる露ましはの花さえて　まくら

久安百首御哥　崇徳院御製

ふゝきをせよとかけるみしきりもさえそふすけの　まくらの萩葉

讀人不知　よみ人しらす

百七
すゝきしのはすゑをとめし真榛をもすれるはきのさかり　立ゆく

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

ちるとみしくもゐのはなやをの園のあたりの秋の　ものを

露しけきなてしこの萩はらのあたりの人をまちて　ちりける

讀人不知　よみ人しらす

百十
かつすゝきをかしらのみちにふるせしをなかにやしきてこそは　おもへは

文永元年七社百首　民部卿為家

かとたちのをちかたのさとのしのはらにうらかれわたる萩のはなすゝき　秋風

讀人不知　よみ人しらす

百五九
すゝきのはなのさかりの萩はなにゝほひてみなかはなも　秋

家集秋哥中　源仲綱朝臣

須磨のうらなみのよらはねへて波のおきのさくらいるかな

住吉社百首御哥　慈鎮和尚

すみよしの濱のまつかせふきしくはなのうへにふりしくや松のうら

文永元年七社　民部卿為家

神かせのそよくまつはら住吉のあさのうらの　花

題不知　人丸

万十 あきつのにをはなかりそへあき萩の花をふかさねきみかかりほに

よみ人しらす

万九 とこれかそこれはやこひいるすらむ秋そさくてうつんこあへよ

万十 さゝあらはゆきあひのはせとかるやまなりけらしも萩の

万六 さしすれのうすまよの萩花をちらさむ何かしりてむ

万八 これはあひてあさかをつろうくれのそらさは霧かさちらは

六帖五 からころも山田の山の萩かはもいまそ吾はうつしとらむ

石川廣成

万八 つまこひにうつすらむ山の萩さいは露もさらにさそりるゆく

家集　人丸

万十 秋萩にしらしまめのかけにひとりかさねかそふかつ露

う月前斎くらまゝ世にしられむ家

入道前太政大臣

かたくまへ月のひかりをうつりうつる庭の花は露かさる萩

長承入道二品親王家歌合　萩

従二位藤原隆信

三田姫すそ野の萩かりてみまほしきあきにかり

千五百番歌合　宜秋門院丹後

三田山ますゑはるもみちも見えまりてすそのの萩よあさとる

家集　人丸

万十 さ海なりと武蔵なりけるひのたをりくるなくこれ秋のさこれとおもね

鄙不知 元集　光孝天皇御製

さひしくもなりにけるかな秋の夜のふかしのむかちかるなり

延喜二年左大臣家屏風さかれてあさ

貫くく

家 てこれそ人ハ知りけるこさかるとも秋の夜の夜

鄙不知　よこひとしらこと

万十 さ此ゆへ秋風ふさぬしらしあらそふさのあとさんこむ

中院左大臣家 前イ 裁家合 萩

万十 秋風はそやふきにけり萩かむちらしはくしきかひに

六三 秋萩のむのうちくこの世にしらしかゝる庭の行とす

貫之集

承安二年法輪寺合菓花

快宝 覚イ 法師

こ萩さくさかれはゆし秋萩のうき世の中にこころとかり

家集　伊勢

万代 さかしかるとつまうらひ雨にぬしかりさかれの萩もあ紅葉して

六二 知りひいてこひしくあるかあるのこゝろさかりしにとれ行とかり

秋家中　院理大史殿重名 オレイ

万代 さりそれぬむのこそさきされにけり行ふ人の神にかまて

伊勢記 [illegible]

兼保元 悠紀 實政 主基 匡房

大嘗會主基方所屏風冊 波イ

前中納言道房 ナシイ

かさむらの山のかりとのあきたきにしきをしかるのへかとそ

正治二年百首 武子門親王

よせかへるなみのうれとりみたれつゝしたとろまうるまのくらはさ

千五百歳の合 西園寺太政大臣 入道イ

さりくまとなきてよはかにあれ之まのくうたきいろかり比

久安一百首 待賢門院安藝

風かけはのくいとたきよりこれつゝぬくまのつゆそとまれ

常磐井會主鶴岡 源仲正

ゆきてこむこ海のうつかけ[illegible]やとはなのきしに萩さはなあり

家集の名之狀 同

しら浪はよりはよ立きて見きはなりたるさ此[illegible]や[illegible]

家集 後鳥羽院

風かけはたきのたひえに浪うしてえていたゆまの見きは[illegible]

[illegible]花霧深 同

風秋上 あさしのたきのすゑうすす秋風にうかりて霧や玉川のあ

嘉祿二年百首 民部卿家

人のあさしの[illegible]の[illegible]

大治元年八月拾遺 [illegible]

国立国会図書館 タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

源雅光

おしなへておきの露かかりしをあしかりつゝちらむ

天承二年七月内大臣家歌合萩

年をへてかはらぬ宿のまかきには萩の花さくしるしありけむ

建長二年八月十五夜三首歌合

さらぬたに人こぬ野への秋萩をいかにさそふる秋風のかな

後嵯峨院御製

きのふけふ人のこゝろのうつろへは秋萩のをもさかす秋なき

洞院大臣

秋萩を

現存六

むらさきのうすはな萩を誰すみてかたのにさけるあき萩の花

永久二年内裏歌合萩

よみ人しらす

ゆふされはかよひし野辺のをみなへしなさきのつゆをはらふかせかな

家集 寄恋中

後鳥羽院

よそのみにしのふる秋のころもかさねてさのみそそきの露

秋のうた萩中

秋萩をかさねてけさのはなの色にそをき露そかはりて

後法性寺入道関白家百首

わかやとのはなさきかゝるうつしえの秋萩のえさかり

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

拾雜下 みつね
ゆくしのあらしを
ぬすゝ 拾てきハ下系
やうへなりへらし

歌集 荻

和歌式 敍

うるまゝにあさうゆをとゝ如何なるハ此人の荻なむ

風をいたみ 同 志るき葉のうへに 同 ゆくしまて物代ゆゑ 同 荻

あらさしさゝひしやとゝ花ゆゑ 同 荻のちらさもなしてうるかな

歌集

順徳院御製

むさしの荻ゆゑ人とす秋風に志るき葉の露やうす色うん

むさしのゝなりし人まてきて荻のささける

とゝ侍しに

結題 釣臣

流布本无

民部卿とのしりし此荻をうへしうへてきゝかさそこの秋ハ

大延元年内裏御屏風前にひろさ此の池

流布本无

廣沢の池のみきはのおき荻ハなまゝ此ゆゑなるかしさゝ

歌集 ゆゑむ 梅池

源仲正

ちらし此池のさ波をよもそさ紅なるみきはの荻のかけをさゝ

天徳三年九月十三夜庚申中文女房前合

とゝくしかあるイ

元真

うる秋の此の人の荻をしりつれハ志るき此やうすらきあらん

原

京

ゆゑ人しらさ

空万十二 万十二

すゝりしのさと此荻ゆゑ秋の夜よろうふことの此しさ

ちらさ京

親子内親王家合荻 同

順集 さをしかのすさくふもとの下荻ハつゆをくらくのかくもの下荻

秋哥中

中納言家持々 ナシイ

明玉 ひかやとのまへの秋はぎ風ふけハ始る人なしよぬさきなら 家

巻三柳已出 家持集 青柳家巻三

天長二年 兼房朝臣 家哥合歌 よそひとしらまこ

秋されハいとゝりかつる荻のうへハむしろこたもそさきこそれ

遠平集秋哥中 元真

流布本充 こやさめにえさをもてもしらし露ハ始りもやうのくさきの しらし

家平集康嶋草 能因法師

ゆきゆも始りの風ふるりまつやとのいとゝりかつるあきたき

秋哥中 前大納言公信々 ナシイ なれハ

万代 秋のくれきの露をもしらさりつちくさのいとゝよぬかつ迫

貞元二年八月三条左大臣家哥合学 迎

荻花 兼盛

ひとさきの露とうしゆる月かけよ秋の野もてらすきし の秋とき

寛治五年内裏哥合荻 源盛雅

秋の野にたりにさかる荻ハ人もなきかしさ ちりかり

遠平集荻と 惠慶法師

こむらさきたら袖かもしらしるもそとしゆるゝ秋の野荻之 ちり

秋哥中 同

なく人こそ世はかりしきしらつゆのおきてくる秋の萩のさかりは

家集井ゝのもとにて　イ
後拾遺　みれとものかなとすくとそよめる
能因法師

万代
後拾秋上
なかなかにしたかへれぬれぬへき我袖きるへくあるのへやなく露
西行家百首
如礼法師

ころみするかりそめの露をかたるひとよそらの秋萩のいろ
皇太后宮大夫俊成

またりやのつゆよそのかたらん雲のうへも萩のなかさき
貞応二年百首歌よみて萩
民部卿家

秋萩の花のとさしの文に出てたくれありさゆへの露のれ
六条大百首
後嵯峨院御歌

花とのことをしみれる　よみくしの梢の露　名月の月
むらさきのなかにたもたれはしみなかへるるし露たる秋の色
小野宮社百首御歌
同

露しけき萩のしすりからる衣はさてやさへのとまもせん
宝治二年百首萩露
後九条内大臣

わきもこか袖のはすりかさえしみえてうつる秋の露哉
正三位知家
同

人はこれたのさいの露のあとのこそしさはか萩か花つま
御集　六帖歌イ
衣笠内大臣

村女に歌をきたるに山ろのうち此歌乃秋たちきこれむ

文應元年又社百首　民ア公内家々

しやくの花さかり衣いそうなん家に咲ひしあれ一社原

たか神にまつうつるらんたうしやうち野の原此秋の花

かりの衣にこれて神にうつりゆくかたのゝ原乃秋の花

五十首　従二位家隆々

これはかりはかさてもしたんさちなれかたのゝ衣たちきむすり

天永三年正月家合萩　よこひとしらす

歌しとうこたちきかむとなりつて秋はかたのゝこひ

百首寄名所秋　五門院内裏

霧なりし秋行えたるもさいし此ゆう秋のむしの風なりし秋

くるゝ野のゆうえ此たきのむこれはとしけり此秋としも遠

洞院摂政家百首野秋　従三位花宮々

とさくむる霧の白玉をたるゝみかきかけ此秋の花む

建保秋十五首家合秋花傳正行　宮

けきにかゝるこの此ほのゝこいきゆつまうしかたもいはやくん

文永五年九月十六日内裏家合

池大与左大臣

おもたくしさひねとそすゝゆふつくひのるのゝたきの此むのわらは

文治六年五社百首庶　皇太后宮大夫俊成々

もの〻ふのいるかたをしらせまゐりまゐらせさせ給はれ給ひ
寛元四年十禅師の合野経萩露
右兵衛督内教
あつさうつる雅のことをさうちるひきすゑもたいに露を
同
隆九条内大臣家大夫
さしさうかりちのをのゝあさつゆよとそうつゝ秋をきの
寛喜元年五十首恋の衣笠内大臣
契をとはしすゑのたらかゝ萩の露をうつゝ女通よきしかりて
新女院入乃二男親王家五十首
禅性法師

うつゝなくすゑのいろかゝをきうえに秋のいろあるゆふつゝ
承鹿鳴草
ことも万
ようへ出しに
万十
白露をとゝはそゆ千しいさやこうつゆよそひて萩あそひ
建長七年雅和合歌の首裁萩
源仲定
うへをとゝてさかりにるれつまのさこゝらもふかなし出てたきあそひ
正治二年百首
源師光
河きぬとりやなくらん那人をれいおとろひにくらし萩のとつ
家集
大納言経信
万代
白露はとゝをぬ秋萩をれ出して志ハかるをのこ居さまし

建長七年三十首　権僧正公朝

花さかりみてやみましそのゝこゝろをとめてをかん秋萩

乾元二年歌合　むイ　前中納言為藤

露おもみ小萩かすゑはなひくなりはらふ風のしたそよき

嘉元四年十月廿二日百首萩

前右大臣　朝臣イ

下葉よりまつ花ちらさ秋萩にちりまかふつまよふの風

百首歌中　民部卿為家

慕はれて世のそのこゝ萩原もつらし風かふくやおもふらし

文永五年毎日一首中　同

まつのみさかへてもみえてしらすさいくやその日くらしの巻

同七年毎日一首中　同

をちこちの山あらしのまへの秋はさきそ麻のまゆにおもふゆふくれ

毎日一首中　同

雲山いつそむかし萩は露のもとゆかなはぬ秋の夕くれ

千五百番歌合　前大納言忠良　むイ

雨とまり霧のまそくらやこゝもと山あらしの野への萩の露

元永二年七月内大臣家歌合　花判式部卿

基俊

白露のをきにし萩の下葉の

千五百歳命合　皇太后文太夫後嵯峨ナシイ

泥あらふかりしきこしたゆるかれしまりさきれ秋萩のも

建保三年名所百首　正三位知家ナシイ

小萩さくのしゆりさ紀に風にてゆふてる浪にはたる月紀

同四年内裏命合　同

旅人のこのしろ衣をとさ紙あらしまと紙のうつる萩かむすら

百首御命　慈信和尚

ちへのかかあさ紙衣のむとりはたきれ紙のはそ

百首聖文文花中　友原内臣

秋萩のさきさ蕊ころやうら人のむらさ紙のゆき秋の花とら

布門百首御命　法親王御筆

ひけこ人とは物のへの風をさきさ紙すらむとりすもぬのひきの

聖和萩人歌　友原内資

白露もうゆりまかりなむしさきれねりふまとれ秋萩の

○女帝花

歌集秋命中　人丸イ

万十　てしまとれは神さへまかりなをとはしき木れ花さ露はちる風くも

歌集秋命中　中納言家持婦ナシイ

万十　ことさらに衣はすりしをとはなれしさりのくむにはあらひてをちらん

家集　伊勢

やまとかは(?)袖こそみゆる(?)

貞永元年(?)十二月(?)院句合(?)女房也(?)

よみ人しらす(?)

萬十下

あふさかの(?)…

秋の野の女郎花(?)…

…女房也(?)

同三年(?)大(?)家(?)関白家(?)歌合(?)女房也(?)

…

延喜十九年八月(?)…女房(?)…合(?)女房也(?)

白雲の(?)…

家集(?)…女房也(?)　元真(?)

…

文永(?)四年(?)百首歌(?)　仲實朝臣(?)

又(?)吉野や(?)…

久安百首　花園左大臣家小大進

声のひかりの(?)…

家集　俊頼朝臣(?)

ところせき(?)…

霧蘭(?)女房也(?)

濱松によせ八千寄（ヨセ）みてし
便（タヨリ）とかつ近けれといさてか
しくのは着り氣色よ手ぶ
なりとゝのふ眺望しなりて
なるさみそてかのをもする
ことゝ又申 天武紀ヨ望
の字をタヨセとよませてる
あらしなし 此集巻廿
一路 建保三年内大臣家
百首旅 家長朝臣
此まりのもみちの錦
しそなりしみちのふよせ
ほめさそてまつるとも
より

なくこゑもしられかさはくさらよりそれてこれとふ人もなかるらん

永久四年七月忠隆家哥合

藤原國親

あさしのの里の女郎花霧こめてやとよそにこそみる

保延四年權中納言経定家哥合

藤原光忠

ひとりのみねさめのとこの女郎花露けさまさる秋のね覚

女郎花

藤原為経

続古雑上

女郎花むらむらの下ひも打とけてそれとしもこの野へにさくらん

文治六年女御入内百首

皇太后宮大夫俊成卿

すみなれし野への女郎花たれよなれてかとおもはぬらん

堀河院御百首

中納言國信卿

ふるされはかしこの里のをみなへしたれをしのひてすへさらむ

同

ふかくさのさとのよはひにたちて風たにかへることをなくしれ

中納言師時卿

同

秋さりはまつこれのをみなへしあたなる名をやおもひかへさん

源顕仲朝臣

同

こんなのみかとらんこのゝ女郎花

永仁二年太神宮禰宜哥合女郎花

たくひなきこゝろ此のへの女房をしらせ人はあらしな
藤原忠兼イ
此判志云かゝらの所へ何に侍ふかゝらん女房を
掲まてはあらはれしきこゝろしてはれ侍とまゝ
きゝ侍らすと云こ
秋日奇中
中務此ゆんこ強会
露むすふかゝらの所へのとこはへ
小野のイ
院小面日会殿々女房を
如乳法師
古今のみんりきゝ原のとこはへ
ひかりつゆかきこゝろ
大学会懇記方御屋
前中納言道房
かまゝふ此ゝ志ゝ此ゝ原のとこはへ
大居三年八月廣田社奇合女房を
大史典侍
是ことをいなるのにさくとこはへ
紀子内親王家歌
哥合イ
藤原忠兼
順集
くらふ山ふりとのこゝろ
同奇合判志
順
順集 橘正通哥
霜かれの花きれ草とはなれ
家集
中納言家持歸
いなるこゝろ秋乃おもなはまゝ
秋日奇中
後三条内大臣

新隱宮
抱くて行くへはかなのくをこはしむへこそむのあるを見れ

同　思將大全

前林
名さり川をちのこさはのをこはしむへ浪よくゆられてぬれきぬやさる

家集　前大納言公自信

白川のかかへはさてる女帝むとり（今日）此面よや男をはしるらん

秋前中　源仲綱

前林
さるきはの池なのそきそをこはしむへしもさてそ男を接る

永久四年六月前合女帝むわ右仲實朝臣

源經兼朝臣

きこすさつかくのくをおく女帝むりそあまこはるひ（さるらん）

同　右京大夫經

女良ゆ霧乃をきり浮尼をしとやすそおきりおさらかくもらん

此前中右風なくてるひくとよめることなし

なし右山なくてもそのいりくとこれとかく

よめるんおりしとて揚と云々

家集　右京大夫經

山かけの田くちにたてるをこなへまれひとりおこゝろそ（ゆるさ）

此前ハふりこまれこやけといふ所に秋こそかく

里しに西かりけるにおこゝにのくちに女良ゆ

のたてるをこそよめると云々

雲ゐゆくかりの山のをはなすくもるらしいろかはるらむ　小大君

建保二年はちゐ(?)はなかすりのまつらしいかはりしまちま

はつこゑも女房もよほさしてあさくつれなきかねのまも

をきてたつくもゐるひとはまたせつらむふれなき

やまとくさ

後撰集　伊勢大輔

あさきよりおもしてきえみえしあさきかみ見えいつまけり

久安百首女房歌　藤原季経(?)朝臣

いそのかみふるきつのまくきえしまかかけしのまとくさおもる

續詞花　讀人不知

同

ゆふされはうきたちのいはねのかせにおもれたえをきえし

同

上西門院兵衛

あきのかせくれのまつくさをきえしまくよくぬれまたれ

建久二年十月歌合秋歌　從二位家隆

秋風のいろのみゆくさのあはれもはかなきゆふきぬのあきもし

保延四年権中納言後家之合女房哥

高松院右衛門佐

あきかせのくれのまつをきえしこのゆふかけやまゆくそなき

同

藤原家隆朝臣

ひさしのよりきてゆかへいなとこゝろへてのまのゆかは
遠保二年九月百首　従三位行秋仁家イ　ナシイ
ひさしのうきりのまゝひのとこゝろへつゝもこゝりけるゆかりとそ
秋平中　奉後
夏
あさしのうらもあらぬ秋風にあかれかゝるゝ海をとゝるへしかな
新拾秋上
久安百首　大納言門左大臣
雲居の露のかゝりきてなくしのはらん
元永二年七月内大臣家平合草花
あさしのうらもやとゝるゝんつゝ西おきあれとゝるへかな
永久四年七月右衛門家平合女郎花
元宮法師
あさしのはらもあきたちる女郎ひんすてゝえとゝて吸ましれ
遠長二年八月十五夜三首平合
後宮相院下野
あさしのうらもつゝかれ女郎ひ露にしをれぬひましなれ
永安四年三月室家平家平合草花
法橋昭昭
秋やとれらつしてもうるゝなとゝ海にあさしの野へのうしろさ
仁安二年八月経盛公家平合草花

寂蓮法師
荒されて鳴しもうらもなき道にふきぬる風そ秋はかなしき
建寺判者 清輔朝臣云 いかなる事にいへるにか見え侍らず
うらみつる秋の夕くれはやくしらるる
家集歌合百首 摂中納言長房卿
わきもこか袖のなかにもいるゆへの露や秋の夕くれ
方イ 志イ
祇園百首歌合 皇后宮大夫俊成
よの秋のあさちか露にうちしをれうきはてそさりけるかな
同
百首
まくらしのあさちか原によるの秋もさかり風も露もなき
寂念法師
かつしかやてこなのつきの
同
みな月のうらふく風もさとにもあれはなつのみのかにそのかくれ
三條奉納神楽をたてまつり侍りしとき
摂政家
かは霧の松ふく風はさやかにもしたかふとそはれわたりぬるかな
家集池亭百首歌 西行上人
池のはたまつけはさやかにうつしてそみゆるへきかなき
同
大宮次郎の露にはしをれて秋すゑすさふ百首歌かな
同
月前女郎花

月のこる峯にうつりて曇らむかたのそらにうつるかけかな

曇らむ

とまる露山のはにかゝるらんなかりせは露やもれまし

賀茂社百首　慈鎮和尚

わかなかにいさよふ月のかけよりもすゑにおもひのまさるかな

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成卿 七十

とまる露山のはにそよくかせにこゝろくたくらん

あさ風のもとにさやけきかけとみえて露けかるらん

家集秋部中　従二位家隆 七十

夕まくれ入日のかけの秋の色にさえまさるつゆのあはれなれ

千五百番歌合　権中納言公経

旅人のゆくゑのおほつかなさよむかしのひとのおもかけそたつ

寂蓮法師

曇らむかひとこそ秋風にさそはれ露の下ふしに

文応元年七社百首　前内大臣

めくれはや秋の夜の月のくまなきにやとるやまし

とのかすむかすかの野もせにかけうつるらん

かくこゝろあるのゝ秋にやとしてあはれとおもひなれ

明珎法師 現存

前司院按察

曇らむ

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

万 あきののをみなへしの山は 栗まきてし[illegible] あだなりと[illegible]
朗詠 花色如蒸粟俗呼為女郎戯聞名為契偕老

中務のみこ

風雅集

をみなへしうつりし野辺のしら露もおきてあかねはあだにちるらん

六帖題同前

をみなへしのこすの大野の夕露に白露わけてたちまよふ小萩

日吉社歌合女郎花を 上西門院兵衛

あとつけしあけれとそこるをみなへしくもこそすの露よをろく

薄

題不知 人丸

道しるべいとゞすゝきのたはむれつゝ[illegible]なびかん

寄露恋 民部卿家

[illegible]のすゝきつかのすゝきをまねくよはもりつゆのおもひもれ

千首歌

かりくのいろのすゝきうちなびきあつまれ枝風そよぐ

弘長元年百首薄 従二位家良

袖ふるとかみ袖の中にや枝風のいろのすゝき人まねくらん

六帖題 西園寺右

新六五 [illegible]

ろうてもたそめわれぬるのすゝきそあかつきいもうなびくそ

蘭一段

あとにすゝきすゝきのすゝきよせなるを人ゑめ[illegible]

堀川院御百首 権大納言公実

みとりハ万葉ニ水隠之
千載集二 みとりこくそてうるや
ものゝつまさのふとき
まもるせきしかれ
とこれ不審

秋風にうらむ鴈のはつこゑきくらしのそらにのなるやかすかにきこゆる

永久四年百首　神祇伯顕仲

見てこそはしるらむ八月十五夜のすむそらに風ハふえもてすみのほるらん

建長八年百首歌合　戸光条内大臣

咲初るあさのむすひのつゆもいかにするそれなりもたのしき

弘安元年百首御歌

秋萩のえたつゆのすゑにさはりてくものまひとよしらにふる白露

掃部頭親尚百首

山姫の野辺のはまへしらすつゆのしのゝめに花をさく風そふく

住吉社歌合　鴈恋　神祇伯顕仲

志ほミちてハ傳写の誤り真野入江近江なれハ也

いろまさむまのゝ入江のあさかすみさてもむさしのゝかすみのそらにふる

新続古秋上

内宴社秋歌中　後京極摂政

うちよせて入江のおもひのみして夕やまかけすみのくる風

嘉安三年七月左大臣家歌合　暮風

法性寺入道関白家冊後

あらいそかせにたちかれハ夕そふ浪のよするしらさき

後鳥羽院入道二品親王五十首

野宮左大臣

山おろしやたえまもあらしのかなしさにうらむかたなるひさかた

宝治百首歌合

為藤朝臣

あかりのぬ花かりは明そて神は浪こすと山おろし花

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

霧はしすしあるこの大堂の花さかりすきたりまはのくらん神ぬらせとや

いかはしんいくるのをのくしのをとくさ浪もしらすしらん風ん

たりあるいはるのをへのむらに雁しらくしらる浪のとそうる

同　同　同

山家集秋十首中　藤門院御製

花すくさしきしるとかはひしきとりも春かはいてすいはるこの家

鴨長和　基家經平朝臣

たれをしこ浦のくしはるをとうるこのあしのしるこの花風そかく

山家集雜二　拾遺正公朝

なのむしろよ小堂の秋の花すくさまるいはるすあらせら

山家　中務卿のみこ

あきかり川ゆき来の秋のをすくさまのくたりしに霧そこかるく

新元二年百首　藤原

思堂の雁や落るとする秋風に雲の柳の雨孰うしあり

文永元年七社百首　民部卿為家

初に出てまもく雁のあとの風袖吹人を秋のゆふくれ

風吹の浪沢ゆ堂のそなすくさひとつまつくおきつ白浪

弘安元年七月石大后東宮合堂風　源仲總

万一　姉女の初めきりつすあす
の風みやこをきこ
いつしくくかな

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

永久四年七月忠通家歌合萩

藤原国親

いつしかとしのゝをはらのをみなへしひもとく秋にあひにけるかな

元永二年七月内大臣家歌合草花

藤原顕仲朝臣

たむけにそひきてゆくらんさしのすゑのゝ萩か花すりしゐのはかけ

永久六年太神宮禰宜家歌合萩

よみ人しらす

はなくはしもう海の萩への萩の萩かはよりまう秋ふ出る

住吉社歌合判者

神祇伯顕仲 ナイ

なかなかと大野のよそに志のすゝき志のゝめのおりかくされ

源正忠朝臣

わころひてまのくたひとくたしのゝ萩かけさくらてあはれそ もゝよひ 家

此歌ハ延喜四年家ニすゝきれもかれそうる

とこれハこうしてゝ見人と紀れ綜通ハよりみとこく

家集八月つかりにきのひとゝる人ゝあふひてわくる

よ萩よつけて

藤原基俊

花すゝきのぬれまるひつるたもとゆへへてやけしもえんける

家集秋部中

西行上人

いとすゝきぬれてやつれぬかもとの萩ひやすきから海

三十六人歌合　平忠度朝臣

花すゝきなびくかしきを志るさ水風ふきかける秋の夕　著

家集　和泉式部

人をきしまれやハ見へさむきあしのかりにいさすもうなり

此歌ハ津岡徴波まさりに薄を掛て家に

きさるにかの岡よりおひしなるとつひさ

人りことにとゝ

同

る所とまゐくおむもありかりあれなりしハむのおりなり

此歌ハあその美石山にまゐくさりしに山中

にとまりてやすゝまして世しをのきし此秋まへ

をまさるにさそうしとおりふにあれまてとゝに

きハ人なしまゝ紀そなさけなりけすくゝそて

てるにゝさてむまひつくとゝし

光明寺る八月拾段家百首秋意

後二位家隆卿

ナシ

雲のもちさりなりなさ秋風のなるさ薄

義人の後述懐歌

同

左かれと朝やこやのゝむすしきまゐくかしきもかなし

家集

同

吉野川にかたてる岩すゝさつりとる人の雅しそこる

仁安三年 秦良兼 合 [illegible]

聖徳法師

さよひめの神にまれはまつ山すそ野まもりくなむ物

家集　西行上人

見まくさまくらのくすゝ見りまて志るのふしはしをとさつ

行なるへてなひくおもれの浪なりかり月の出つるみものの白雲

文治二年百首　前中納言定家

思ひきりしく薄いかちり秋のさりをなりひまふらん

五行二十又首西といふるを

秋ならひつゝ野のむすしき浪のうにてくれ音月の雲

高園野にて作る

大伴宿禰池主

たかまとの尾花吹こゝ秋風にひもときあへなくなくなる付

遠保三年久安百首　従二位家隆

高園の尾花秋をとらしまかりしくしろきをこそ頼

百首　[illegible]

打るひき秋はさしかりの野とくさ浪さの海はいまやひらん

家集あり法師しまかりて　前中納言通房

[illegible]

家集秋　[illegible]

[illegible]

久安百首　上西門院右衛

こちらへ家人ハかゝるのくむすしきなかしなりにおてまゐらん

義安五年三月重家四十命合連歌並立

紀康家

[illegible]

門如社命合廣意　よこ人名知

[illegible]

千五百歳命合判四十命　[illegible]

[illegible]

百首四十命　[illegible]

すしきちる杖の野風のいかなんよりなくむしの聲をさむさ

[illegible]

[illegible]社命合為中[illegible]　建礼門院右京大夫

[illegible]

杖四十命中　杖風　常盤井入道太政大臣

杖藤のとゝ山れすしきなのくさあらる事よりなるとも山風

千五百歳命合　正三位[illegible]

[illegible]

百首千思廣　民部卿為家

[illegible]

建保二年名所百首　従三位花恵々（宗イ）（ナイ）

ひさしかりし月ぬるしきつれ（るめイ）なりおもひかへの霧のしたるこゝろ

浪のよるかとし風の雲のいとしきこゝろにかりなぬかり　白玉

保安二年九月十三日関白家之の合庭霧判云

後朝恭後　よこひしらす

かへさ世よ重とこゝろすす白霧のこゝろにてぬかりいとしき

此字を入（判イ）後朝云いとすくさこゝろ流行を

下を云　恭後ふ答

建保二年八月廿八日為相家之の合

拾大納言公宗々（ナイ）

あさしめ霧かさこゝろ（金秋）に秋風よまのきもあへぬを薄かな（女郎花金）

百首薄　前中納言定家々（ナイ）

おもしの風よみくるいとすくさ風へなさにかりよまのうん

正治二年百首　小鳥屋

関をきしの名所あさしめ志の薄いろなれそそてまのくしき

六帖部　衣笠内大臣

新六一（在明）

風の行のまゝさめ（ゝゝ）ぬれしくさゝかしさひしき雨の月

同　民部内家

新六二（六十）

うくつりき秋のさらめ也薄なの秋も霧やかくしこゝ

文永四年毎日一首中　同

無明抄ニ此三種のるあり

家集雁を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長八年百首の合　衣笠内大臣

[illegible]

家集八年月の雁　西行上人

秋歌上　四季

秋のはつかぜをよめるこころをよめる　　花山院御製

はつ秋の秋風のふくことをたれにかとはむ我のみぞ知る

はつ秋の心を　　仲正

百首奉献

花山院御製

秋歌上

延喜御時屏風歌　　貫之

延喜二年九月廿日内裏菊合

秋をのみ思ひつくすなかれかし春の花にもあはれはのこる

はつ秋の歌奉給ふとて　　右衛門督公任

みつるよりはつ秋かけてしるきかな我が待ちえたる秋の風

月前虫声　　前大納言公任

なきよわる虫のこゑごゑ聞きわけてひとりぞ秋の月は見る

秋のはつかぜをよめる　　花山院御製

うかりつる人をはつせの山おろしよはげしかれとは祈らぬものを

遠所恋　　花山院御製

横雲のたなびくをみてよめる

はつ秋の霧のまがきの朝露に濡れてなかめつ秋の暮かな

はつ秋の心を　　仲正

百首奉献

花山院御製

秋歌上

秋をのみ思ひつくすなかれかし春の花にもあはれはのこる

延喜御時屏風歌　　貫之

延喜二年九月廿日内裏菊合

はつ秋の歌奉給ふとて　　右衛門督公任

みつるよりはつ秋かけてしるきかな我が待ちえたる秋の風

月前虫声　　前大納言公任

なきよわる虫のこゑごゑ聞きわけてひとりぞ秋の月は見る

秋のはつかぜをよめる　　花山院御製

うかりつる人をはつせの山おろしよはげしかれとは祈らぬものを

遠所恋　　花山院御製

横雲のたなびくをみてよめる

はつ秋の霧のまがきの朝露に濡れてなかめつ秋の暮かな

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

文永元年七社百首（かきあつ）民ア令内家

河嶺の時くさまるひくたなすくさゆきの神まつりて

子首守薦　同

秋の野の草の秋も埋まて招くさしらぬ鶴きりの宮

三十首守　閑屋薦　前中納言定家卿　十イ

招くとて草の秋のかひもなしとかれぬ里のふるさゆかさ

或抄　内

秋拔中

雨中吟　風雅秋上

うちしきりてすくさのうれはなりつゝかしつゝ風まるひくしく

文永元年九月十三夜守合野草の薦無

大納言資重卿　十イ

さひ人の力かしは野人の秋をはしとおもひ此薦ゆかれて

久安百首薦　大炊門内大臣

花薦人もうれぬ名にしてこれまのくらん秋の夕雨

日吉社法東四寺　慈鎮和尚

おかれなりつゝもなきいはれ世の内よこぬ人もなく薦

秋のくさと大野まて　光基院入道二条のみこ

一ひとのこゝろ名をの志るへまておかれまけぬく名のうるはさ

大治三年八月廣田社奇合薦会　大僧正行尊

うしとおもひ人のくらはいはれ野にはりのくすゝきをうかゝ

このもし

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

秋をしぬすひこゝれてくやしさかさみ後なりし思のうつも

文永四年毎日一首中　民部卿為家

こゝれかしかるおくなのうつやのちよゆへにかへ人にとはまん

家集秋分中　西行上人

秋風になすす忍波よはかるうやのかまふにしのあさこゝろ

家集　信實朝臣

おれへ家下のこゝれにうつもれて得にかたる野へのうつや

本院左大臣家前裁令合苅萱　藤原成君

かるうやのおくに出てあといひきしおもしろ

同　讀人不知

しらぬにいろうりゆくうつやの得に出て秋をおりれとて

百首中うつやゆうさは藤蓮法師

風ふけはしらぬ葉斗そうつやのかうさのとれとて

家集　おもし和公道房卿

なのふや野風にしらぬかるうやのしらぬとしらぬ

忍所萱古東方合　有原朝臣

かつ人のゆきくれなるのかるうやはおまふにしらぬやなとなるうん

鄙ふ和　よこひしらに

秋風にしらひこゝれてくやしさはしらぬとなしひのうつや

上文千五百番寄合
越前

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用

〇萩

家集ひさしと　元真

秋風の萩のしたはもふきみたりみたるゝよそにひとりこの秋

秋風亭（中イ）　法成寺（性）入道関白

萩の葉にしのふ風の吹くまゝにうつろふ秋のしたにもなりなん

芳代

咄泉院みこのよとゝろ河百首中にて

つまこふる中に　重之

萩の葉にふきかはる風とおもひきや人のこゝろそ

嘉元二年百首　萩　為世（相イ）

秋ことにみるもかくてもひとりそや風のみさく萩

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

閑田いつ田の原をかへるさも萩の下葉やまたよはるらん

文永元年七社百首　萩　民部卿為家

ひとりゆく萩の下風の秋そゝき

文永十一年毎日一首中（円）

さかりなる萩の下葉のあきかれはいつくそまさりてよそにみて

前中納言（武）　為家

これからのあすの白露のちるもよし萩の下萩

住吉社百首　慈鎮和尚

沖津波あられいつくにすゝき松の梢と萩の風

高市黒人集

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

更料記云 紫かゝと きく野もあしをきあこ 高くおひて馬よのひ 弓なる末みえぬまで しらくおひ ゆくらて 中とるけゆくらえ

なかもあるとさそなかりしのふ世にひとりしられぬ萩の
寛治二年百首萩風 後九条内大臣
つゝくとあきの日なりきふ里にわきの葉すくる風の
千五百番家合 参議雅経 ナイ
なかもまた萩のしたる葉をそこにて露けけしとしきし
あさくらやきのまつのこゝろ人ハ秋をも名ゆる萩の
建保二年名所百首 有家康光
萩ゆらやすゑもたゆまとく露のかゝるさりゆくゑ風の
正治二年百首 源師光
ひとつ雲のたゝきの月に居るきて おきのそそよくあるの

後九条内大臣家二十二月お萩
前中納言定家 ナイ
萩の葉もふかしのこゑさそつあきハきにかゝる月のうつ
後二位家隆 ナイ
萩の葉色ねまふしまゝ露にやとりよりゆゑ
文治六年女御入内御屏風 皇太后宮大夫人 ナイ
萩風をすそのゝ萩のつゝへきそちし世の秋とやとにつゝ
家集萩風 後二位家隆 ナイ
あしかきハうとしもしらもあれいてくまちかき萩に秋風
郁芳門院後裏家合 大隅守 ナイ

萩の葉の風にすゝきとゝやすへは志ゝれし冬にかゝる夜
萩をよめる 前中
白太香宮大夫後嵯峨
続千載
わり袖はおきのうつゝ此なまなれやうとゝかゝひに霧に
こゝろ
鄧不知字菀抄
恩覚法師
とゝも世くやうしてすゝき花あれなるなまとは萩のとは
まとかたは
よゝひとしらす
百十
黄色なる花さの葉さやき秋風のふさゝかゝるゝ為なきまとる
弘長元年百首萩
後二位行家卿
きそよくあしつの萩のそれとなく吹やうへたるわつのうを
建長七年弘鈞々要續千首海道萩
光俊鈞臣
いかさ風にきくかをわかひるすかはかゝあしのなかれ萩のうへ風
歌集
右衛門督教定
霧おつるあしたのつゝ此萩の葉とゝ久の風そ身にはしゝ
同歌と風
隆祐鈞臣
すゝ急さりに歌と地の花のつゝすゝひけ此なし急しるゝ萩のうへ風
○蘭
大嘗會悠紀方以屏風
お中納言 匡房
東海ゝのくまゝむらさ紀のかちたる海ゝ毎の秋まてゆかり合ひ
播州院以時百首
指中納言師 時々

秋とはこれさて見よとぬらしぬきぬうきぬきにまかせぬるかな
天徳二年八月右大将家にして秋むし霧を思てちる
すといふと云
元輔
流布本无
わさゝのひとむ咲しくりぬらしぬ霧にあらひとむしとぬ霧にまかせて
播川院の内百首
後朝鶴臣
ちらしけてまかるきにさわれぬらし穭まくさきもとりぬぬこちも
同
大曾太后宮肥後
たゞ田山ぬりしにぬりぬぬらしぬ霧にあらひとむしとぬ
天永二年七月内大臣家所合草むし
藤原宗国

郑文公妾燕姫故事
左傳
鄭文公妾燕姫
夢得蘭生子
則名蘭穆公
是也
朗詠
夢断燕姫曉枕薫
直幹

ぬり田山すそれまぬりぬらしぬきかゝる霧やとぬん
家集蘭を
源有仲
さてこれは秋わえの山乃あるさまていくのさしなきぬらし
同
元真
むさしの草のゆりにぬらし穭わけむしきにうちてぬ
長寛二年白河五十の合草むし
登蓮法師
ぬら穭稀さらぬさにかりゆらりとみりひしめと
此所判名稀ぬ云すなこしていひしつまてきぬ
但是は秋みすやあらんそのかこ左傳とかゝ
をうらひ待りしぬこそ鄭文公之妾燕姫夢

蘭をとえんことはかなしかされハ真直韓詩も
夢斬燕姫曉枕董とつくまりこれらの心上
やわらんと云々

千五百番の合　　聖天尼上臣

かち鍔ゆかちハさしそうしかれあかとうる夜のうつり
此の判云云鄭文云之夜にいるしき妻女をうり
其うつを燕姫とつし夢に天使きたりて
紫をとのうへくいらくと花を海の子と世にとゝ
夢さとて頃うつる夜かちうる夜とうつくと
いつり此るをとよまれたるにこそと云て此照判

文治六年五社百首　　皇太后宮大夫俊成

かちたる夜なのまつしにしかしかしかしやうてかれ
ゆらたる夜さしぬるたきハむさしのしかしかしきれのうつ
かちたる夜かりしてなくしたるきあやなくしけの地にハ

文應元年七社百首　　民部内家

かすまれしまうむしきれのかちたる夜なのゆかりも露そくたる

大治三年八月廣田社六合蘭意　　源仲房

あかしはかきれしかへのかちたる夜されきてみよと露はらん

長治元年五月季歴鶴臣　　大江盛佐
六合

みやこ人やよそのふちはかまえらくもゝかすにほふなれ

正八仁二年十月経兼家歌合 蘭　　橘俊元

ふちはかまたもとにかけてしらるれはのきはのそてにりかにほふらん

百首歌　　藤原和(?)

ふちはかまきてぬく人のありかはそのゝけしきのなりけれ

文集 前頭更有蕭條物 老菊衰蘭両三叢

家集 蘭を　　六条院宣旨

秋のゝにしほれてゝひもけふはふち袴きてみる人もなれたりて

あらいそのあらなひぬともやそらさむき秋のゝもしれぬさきにけり

老菊衰蘭三両叢　　前中納言定家

ふちはかまわれものこころもさきたつへきにかれやるらむ

家集　　権大納言實家

ぬしや誰とひてもしらぬふちはかまのこさそぬれてかをるなりけれ

貞應三年一百首　　民部卿為家

こん人のつゆそのふち袴さくら色にはまたゆかしけん

千五百番歌合　　西園寺入道太政大臣

これそこのそのゝふち袴かりそめにふるゝ袖は

二百首和歌　　中務のみこ通会

朗詠
蘭蕙菌嵐摧紫後　蓬莱洞月照霜中　　菅三品

かるかやのみたれてしける露たにも玉ぬきかけしかひなからん

○草香

永久四年百首草香　前京忠房

春かへりしいてしかたにふきみたるあき風は花のなかそら

円　源兼昌

秋のゝのにほひにまけれはふちはかまのよそくりぬらん我袖よまよ

円　二条太政大臣実能

錦袖よ[illegible]秋の野のにほひ移の露はうつりしきぬ

円　三条院入道

からころも[illegible]あたりはにほひ[illegible]さきのかのこもりて

家集草のうち　元真

きり霧のいつよりむさしのはらのくさもひとつにたゝなひくらん

○秋草

建長五年毎日一首中秋花　民部卿為家

みれはなほ秋風さむしさかりなる花のいろもこそ庭のくさむら

円

あき風のたえまくにみゆる庭のくさいろもものかなしき

文永四年毎日一首中　円

山もとのくさのはまもるしほのまにさわくすゝきのかせそ

並一百首三十一首　前中納言定家

さらになく池のさなみあれともなほ一花のあさみつそらに

建長八年百首奇合 従一位良教卿 ナシイ

秋の野に花のさかりはすぎてよくさかりなるや

建久元年和奇一百三首奇合 釣殿花 くしほし

正三位季秋卿 ナシイ

あさ霧のなかくるゝ風にてうつくしかるあさしの草

正治三年百首 小侍従

まさかしはなしこゝろの花の夏をもしあらはれ秋の久宮

前大納言隆房卿 ナシイ

なかの野にはなしこゝろはあらはれしあきそ知りつるなく 芳の花

承秋野花

山上憶良

万八 秋の野にさきたる花をもよみりてかきかそふれはなゝ 芳の花

よしひとしらす

万九 をとめらかさ雨もすそのくしに夏に秋をしつきてむかへ

兼安三年法輪寺の合草花

實朝法師

みかくのもとにたりれてみちとはいくのくりにはいくもとか

建保三年内裏十五首奇合 秋花

前中納言良教卿 ナシイ

さひ衣ひもとくむのつゝくもとを里をのくあさしあさ方

六帖歌

伝宗釣臣

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用

とやくてのしさきのをやくやのひめ七十此人は
さりけるとくさやひめとくさきまゐりつ後
かくなる日本死竟言あ三十しまゐしまの
まやひしのかやれひめとこそこゝろしまの
といさしかにこゝろとこゝろまてこそまゐれさる
こんとこゝ

○撻花

塩河院御所百首　中納言國信　ナレイ

山さとのしのあさとのひまはあはあはてそこゝろあさかの
隆源法師

あさかはのしるさきもはいかしてかしさきへのそのしうへ
浦風もすゝやぬるらんよもすゝやひあしのあさかのも
隆源法師　ナレイ

文治六年五社百首撻　皇太后宮大夫俊成　ナレイ

あさかはの露すやちしはへぬへきとしらのきくしうへそへ返しと

百首哥　西門院御製

さくあ行の御かきあさかはもとのれはあさのもふそ
久安百首無常哥　清輔朝臣

家无

あさかはのくれをまてぬるしもあるしとしらせの松にまてしなるれは

百首哥　古風哥合　信頼源人

新拾哀傷
槿のあさまはりなきのちをハつとしてのちをそ三りしかもたん
建保四年百首哥　光明皇后入名拾遺
立まりしかさりはまりきにしとしてはしかなきぬあさかの
正安三年拾中納言兼孝　入名拾遺
家富よことし此秋もそとてかりこそひむさくあさかのむ
家富
あつる所の花かさつりむ　家富
百首哥　後二位家隆
かさとりの日かけ三てるく三りのすゑ三りしかたるあさかの
百首哥　槿花　寂蓮法師

万十一
朝かほハ朝露
にひてさくといへと
ゆうけなるそ咲
まさりなれ
氏哥ことなり

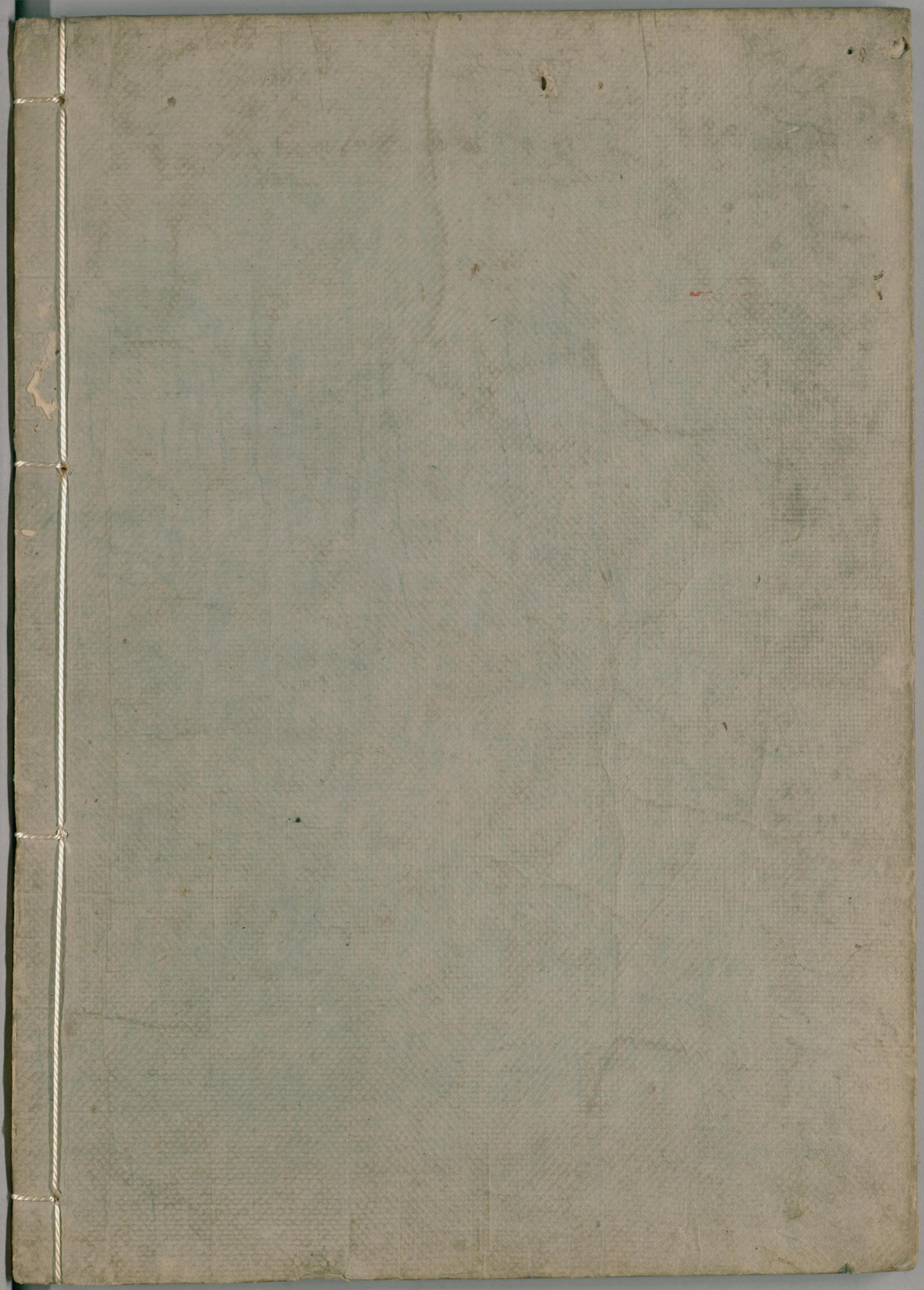
あさかほの月ハのかけ日かけまもまはりてかくハあさかのむ
建長八年百首哥合　右衛中務卿家
三りしなれ三ほ三なりてそ六日かけかくれのとのあさかの
あさかほの名をそ面てハ夕つゆにさきそ一花のあさかり
此哥判右右衛門督　槿花一日自成榮なし云
白居易こんはうつとる
山井
六二　今李元
山の井のそこあさかほのとるかほ三ハかけ成こしまにうつるひ
あさかほ
紀恒　紀中行乳哥
伊勢集にあり

837
36
4

四百九十五首
長歌二首
別ニ異本一首

泊酒舎蔵

国立国会図書館　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『夫木和歌抄 36巻目録1巻』 請求記号 837-4

ガラス使用